

平成 21 年 3 月

おのが尾を咬み襟巻の銀狐
己が尾を咬み襟巻の銀狐
おのがかけ踏めば前進星月夜
おのが身を煎じる心地菖蒲の湯
おほげさに吹かるる冬至かぼちゃかな
おんぶして蚤の夫婦のばつたかな
カーブミラーに映るは竹の春ばかり
回転寿司のベルトに威張り本鮪
解放のドアより太き隙間風
界限を巡視するかに鬼やんま
鏡開き餅の頑固を罵りつ
篝火に熱のあらざりシクラメン
牡蠣打ちの口の達者や手の達者
陽炎と蜉蝣蜻蛉みなかけろう
風花や滞空時間競ひゐる
風花を載せて女の長睫
カサブランカ活けて玄関狭くする
柏餅にしがみつくなり柏の葉

風にゆれをり蓑虫のワンルーム
数へ日の数へるほどもなき日数
硬き音東風といふ名の風なれば
かたくなの口ひらきけりあけびの実
肩にあたまに降らせ放題木の葉雨
担がれることも人徳四月馬鹿
貝殻の白きをみがき秋の潮
紙を吐くコピー機震ふ余寒かな
枯木と呼べるいつさいを捨て果てて
カレンダーに書き込みの増え春隣
かわえびのくきくきはねて水温む
寒月をひとつ点して露天の湯